

Ⅷ 特用作物

1 七島い

1) 苗床

(kg/10a)

土壌型	成分	元肥	追肥			全量
			1	2	3	
			(6月下旬)	(7月下旬)	(3月下旬)	
壤質	N	15	4	4	4	27
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	21	0	0	0	21
	K <sub>2</sub> O	15	0	0	6	21

2) 本田

(kg/10a)

作型	目標収量	土壌型	成分	元肥	追肥			全量
					1	2	3	
早植栽培	1,200	粘質	N	24	(6月下旬) 8	(7月上旬) 8	0	40
			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	20	0	0	0	20
			K <sub>2</sub> O	21	3	4	0	28
		砂質	N	21	(6月中旬) 6	(6月下旬) 8	(7月中旬) 8	43
			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	21	0	0	0	21
			K <sub>2</sub> O	21	3	4	4	32
普通栽培	1,200	粘質	N	22	(6月中旬) 8	(7月中旬) 8	0	38
			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	17	0	0	0	17
			K <sub>2</sub> O	20	3	4	0	27
		砂質	N	18	(6月下旬) 6	(7月上旬) 8	(7月中旬) 9	41
			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	18	0	0	0	18
			K <sub>2</sub> O	20	3	4	5	32

3) 施肥上の留意点

- (1)分施肥は元肥割合を窒素は5~6割、リン酸は火山灰水田、漏水田を除き10割、加里は5~8割とする。
- (2)深耕、有機物の増施による地力増強が必要である。堆きゅう肥、牛ふん、豚ふんは1,000~1,500kg/10a程度を元肥に施用する。なお、堆きゅう肥等の成分量は上記施肥基準に含めない。

## 2 茶

### 1) 成園

(kg/10a)

目標収量 (kg)	成分	施肥時期					全量	備考
		秋肥	春肥	芽出肥	夏肥 1	夏肥 2		
					(5月中旬)	(7月上旬)		
2,000	N	17	14	9	9	11	60	pH(H <sub>2</sub> O)4.0~5.0、 石灰飽和度 15~25% の範囲に維持する。
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	9	11	0	0	0	20	
	K <sub>2</sub> O	8	11	0	0	11	30	
1,500	N	15	13	9	9	9	55	
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	8	10	0	0	0	18	
	K <sub>2</sub> O	6	10	0	0	9	25	

### 2) 幼木園年次別施肥割合

(kg/10a)

年次	成園の基準に 対する割合 (%)	全量			備考
		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	
初年	50	27.5	9.0	12.5	・施肥時期は成園のものに合わせる。 ・施肥量の基準は収量目標 1,500kg/10a の基準を用いる。
2年	60	33.0	10.8	15.0	
3年	70	38.5	12.6	17.5	
4年	80	44.0	14.4	20.0	

### 3) 施肥上の留意点

- (1) 保肥力の小さい園では各時期の施肥を2回に分施する。
- (2) 冬期に寒害を受けやすい園では、秋肥の加里の施用量を2割増しとする。
- (3) 有機質肥料は秋(9月上旬)と春(3月上旬)を主体に施用する。
- (4) 堆きゅう肥は8月下旬~9月上旬に施用し、同時に深耕を実施する。茶園における堆きゅう肥の施用量の目安、施用時の注意点については第2章を参照する。
- (5) 土壌のpH(H<sub>2</sub>O)は定植時5.0~5.5、成園4.0~5.0に維持する。石灰質資材の施用は土壌のpHを測定して施用量を決め、施用時期は新根の発生が旺盛となる9月上旬以前とする。

### 3 ハトムギ

(kg/10a)

		元肥			中間追肥		穂肥		晩期穂肥	全量		
		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	N	K <sub>2</sub> O	N	K <sub>2</sub> O	N	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
直播 (4月下旬～ 5月中旬)	施肥量	2	15	5	5	5	5	5	5	17	15	15
	施肥時期	4月下旬 ～5月中旬			7月中旬 ～下旬		8月中旬		9月上旬			
移植 (5月下旬)	施肥量	0	15	5	5	5	5	5	5	15	15	15
	施肥時期	5月下旬			6月中旬 ～下旬		7月下旬		8月下旬			
移植 (6月中旬)	施肥量	2	15	5	5	5	5	5	3	15	15	15
	施肥時期	6月中旬			7月下旬 ～8月上旬		8月下旬		9月上旬 ～中旬			

#### 〈施肥上の留意点〉

- (1)この施肥基準は 500kg/10a を目標収量とする。
- (2)短稈化と登熟向上を図るため、元肥を少なくして追肥重点施肥にする。
- (3)標準施肥量 15kg/10a は地力に応じて加減する。
- (4)緩効性肥料を使用する場合は次の通りとする。
  - ①6月10日まで移植の場合は、移植後25～30日に緩効性複合化成肥料（N, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>, K<sub>2</sub>O 各14%含有）の100日タイプで、10aあたりN, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>, K<sub>2</sub>O 各成分とも13kgを施肥し、以降の追肥はしない。
  - ②6月中・下旬移植の場合には、元肥に窒素2kg/10aを施肥した後、①と同じ施肥を行う。